



○ ちがい

役柄上、さまざまな授業を少しずつ訪問しています。非常勤講師の先生方は週に一度ということがほとんどですので、機会を逸してしまうと2週間出会わないということになってしまいます。極力まんべんなく対応したいと思っていますが、うまくいかないこともあります。

「健康科学」では世界各国の国技調べから授業が始まりました。10数か国くらいの紹介でしたが、ブラジルはサッカーが国技ではなかったことや、馬に関するスポーツが結構多いことが印象に残りました。楽しく拝見していましたが、ふと、「この紹介の中に日本の相撲の映像が同じように出てきたら…」と想像してみました。かなりのインパクトではないかと思えます。

相撲は本場所が年に6回開催されます。その詳細は主にNHKで放映されています。日本人である我々はその映像を当たり前のこととして見ていますが、見る視点を日本以外の人に置き換えてみるとずいぶん違って見えるだろうということに気づきました。ブルース・リー主演の「燃えよドラゴン」では、ある部屋で様々なスポーツ・競技などが見世物のように展開されている場面がありましたが、相撲が真ん中で取組を行っていたことを思い出します。

グローバル化ということばがよく遣われますが、多くの視点でものごとをとらえるという柔軟が必要ではないかと思えます。これは日本と外国との話だけではないと思えます。日本国内でもグローバル化の意識は必要だろうと思えます。特に西日本と東日本そして北日本では言葉も習慣も違うことが多いようです。前職時代に中・四国大会や全国大会に参加する機会が数回ありました。方言が違うだけで独特な雰囲気の違いを感じたことを思い出します。

公立の小・中学校(幼稚園、高等学校も)では「学習指導要領」をもとに教育活動を進めています。日本全国どこにいても同じ内容同じレベルの教育を等しく受けることができるようにという配慮からです。これはとても素晴らしい制度だと思っていますが、それぞれの地域にある独自のよさも大切にしていかなければならないと思えます。

東京での学生時代、友人から山口県は関西のうちの一つとされていたようで、ちょっと残念でした。YICグループは山口県と京都府に展開していますが、これにもおそらく少々の違いがあるだろうと想像しています。

ごく身近な文化の違いもあります。私の隣に居る人と私です。それは友人でもあり、仕事仲間でもあり、隣の家の人でもあり、兄弟姉妹でもあり、妻(夫)でもあるでしょう。まったく同じ文化というものをもっているわけはありませんね。それだからこそ違いを尊重し、分かり合おうとする努力が大切だと思います。今ニュースでは国と国との摩擦が大きな話題ですが、この件についてはコメントを省略します。

自校自賛

現代アートと思って、右の作品を鑑賞してみましょう。
どんな題名をつけてみますか? 作者は本校の頼本先生です。
使われた素材の説明と私(須内)がつけた題名は次回で紹介したいと思っています。



「.....」